

# 今年度大切にしたいキーワード

本研究計画作成試案では、小教研会員の誰もが内容を理解できるように、各部会でレイアウトや解説の方法を工夫しています。

また、学習や研究を進める上で大切にしたい事項を「キーワード」という形で提案しています。

日常の学習指導や研究推進において、十分に活用していただきますようお願いいたします。

## ◆◆◆ 国 語 科 ◆◆◆

### 主体的

「主体的」とは、子供が言葉に着目し、言葉を吟味し、意味や働きを捉え直しながら、進んで言語活動に取り組むことである。そのために次のことを大切にしていく。

- ・指導事項を分析し、子供の実態を踏まえて、育成したい資質・能力を明確にすること

### 対話的

「対話的」とは、教材や友達と関わりながら、意味の異同を自覚したり、互いの考えを共有したり、自己の内面に目を向けたりすることである。そのために次のことを大切にしていく。

- ・自分の考えをもつ場、友達と話し合う場、自分の学びを振り返る場を設けること

### 評価規準の設定

言語活動の中で「考えが深まる」子供の姿を具体的に想定し、指導事項に基づいて評価規準を設定する。その上で、単元のどの段階で、どの評価規準に基づいて、どのように評価するかを決定する。そのために次のことを大切にしていく。

- ・設定する言語活動を教師が事前に体験しておき、努力を要する状況等への手立てを想定すること

## ◆◆◆ 社 会 科 ◆◆◆

### 社会認識

子供は、対象とする社会的事象と向き合う中で、身に付けた様々な知識と潜在的な見方・考え方とを関連付けたり、再構成したりしながら自らの捉え方や意味付け方を吟味し、自分の問題解決への道筋を考えていく。そして、問題解決に向けて、多様な捉え方や意味付け方に触れたり、その違いを話し合ったりすることで、子供は社会的事象に見え隠れする人々の働きや営み、自分の生活との関わりなどについて繰り返し考えたり、表現したりしていく。その過程で、比較、関連、総合させながら子供の内に深まる社会生活への理解やそれに伴って育まれる社会の一員としての態度である。

### 子供が社会的事象を身近に引き寄せる『問い』

『問い』とは、問題解決に向けた様々な学習の場において、社会的な見方・考え方を働かせたくなるような学習の状況や場面をつくり出すものである。また、学習問題はもとより、社会的事象に触れた子供の素朴な疑問や教師の発問（言葉がけ）等を幅広く含むものである。教師は、子供の実態や素材の教材化を踏まえながら、対象とする社会的事象と子供たちの生活経験とを関連付けることで、子供の興味・関心を高めたり、これまでの経験や知識と社会事象との矛盾点に気付かせたりする。そして、子供が自ら社会的事象との関わりに気付き、切実感をもって考える契機を生む『問い』を構成したり、『問い』を子供たちの中から引き出したりすることが大切である。

## ◆◆◆ 算 数 科 ◆◆◆

### 主体的

「主体的」とは、目的意識をもって数理的な事象に繰り返し働きかけ、自分の考えをつくり上げることである。そのために、今年度は次のことを大切にしていく。

- ・子供の問いを大切にしたい切実感のある学習課題

### 協働的

「協働的」とは、友達の考えの中に自分では気付かなかつた数理的なよさを見いだし、新たな視点から自分の考えを再構築することである。そのために、次の3点を大切にしていく。

- ・子供の姿を想定した単元計画
- ・互いの考えを理解し、よさを感じ合う言語活動
- ・新たな視点から考えを見つめ直し、よりよい考えに再構築する場

このように、自分の考えをつくり上げ、新たな視点から再構築することを繰り返す中で、よりよい考えをつくり上げ、数学的に考えることのよさを感じる子供の育成を目指す。

## ◆◆◆ 理 科 ◆◆◆

### 主体的・対話的な探究

「主体的に探究」している子供は、自然の事物・現象に興味・関心をもち続けながら、自らの問題を見だし、見直しをもって問題解決していく。また、「対話的に探究」している子供は、人との対話、自然の事物・現象との対話、自分との対話を通して、自己の考えを広げ深めながら、問題を科学的に解決する。

### 粘り強さと自己調整の力

評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」では、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行う側面と、粘り強く取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面が求められている。粘り強さの側面からは解決方法を振り返り、それらを見直し、再検討を加えることも大切である。また、自己調整については、より妥当な考えをつくり出すために、他者と関わり、自分の考えや学習の進め方を振り返り、見直そうとする機会をつくることが大切である。

## ◆◆◆ 音 楽 科 ◆◆◆

### 音楽と豊かに関わるための題材構成や教材選択の工夫

音楽の構造等を分析し、適宜、〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図るなど、効果的な学習展開となるよう題材構成や教材選択を工夫する。また、学校や地域の実態に応じて題材構成を工夫し、学んだことや音楽活動と学校内外における様々な音楽活動とのつながりを意識できるようにする。

### 『音楽のよさ』を感じ取るための学習過程の工夫

音楽的な見方・考え方を働かせ、友達と協働しながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考える場を設けたり、音楽の構造を可視化したりする。また、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるように工夫する。

### 一人一人のよさや可能性が生きる評価の工夫

指導と評価の一体化を図り、「子供にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、指導の改善に生かしていくとともに、子供自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。

## ◆◆ 生活科・総合的な学習の時間 ◆◆

### 単元の見直しを子供と共有する

単元との出会いの場では、子供自身が「やってみよう」「できそう」「解決したい」という意欲をもち、これからの学習を見直し、いつも単元名に立ち返って取り組むことができるよう、単元との出会い方や単元名を工夫する。また、単元が進んでも、小単元や単元全体の見直しを共有し、子供たち自身が「今、何のために、この活動をしているのか」を意識できるようにし、子供の主体的な活動へとつなげる。

### 子供たちが自分との「違い」に気付くための共有の場面を大切に

他の子供が相手の気持ちをより想像しながら聞けるように、問い返すだけでなく、場の再現や動画で確認するなど、発言している子供の意図が伝わるように工夫したい。このように、話し合いを進めると、子供は自分と比べて聞き、「違い」に気付く瞬間がある。その過程の異なる部分、思いや願い、学習の進め方、学んだこと等の違いに注目して聞くことができるようにしたい。これらの「違い」から、自らの取組を見直し、追究を充実させていき、一人一人の学びの核となる。

## ◆◆◆ 図画工作科 ◆◆◆

### ものや人と関わり、豊かに発想・構想する力を伸ばすために（思考力、判断力、表現力等）

活動全体のイメージをつかませ、発想を広げるために、題材提示の仕方を工夫する。また、材料や用具、場所等から発想を広げるために、それらとの出会いや触れ合う場を工夫する。

発想や構想の刺激となるような関わりが自然と生み出されるように、友達と関わる場の工夫を大切に。また、〔共通事項〕の視点から、子供の気付きや表現の意図を整理する。

### 創造的につくったり表したりする力を伸ばすために（技能）

その題材で、全ての子供が身に付ける技能と、子供自らが発見していく技能、この両者を明確に区分し、題材を構想する。

創造的に技能を発揮できる鑑賞活動、話し合いや学習環境づくりについて工夫する。

### 子供の見方や感じ方を広げ、深めるために（学びに向かう力、人間性等）

子供が自他の作品を鑑賞するなどして、よさや可能性、異なりに気付き、見方や感じ方を広げたり、深めたりできるように評価方法を工夫する。

ワークシート等やICT機器を活用し、表現活動における適切な記録の累積を図り、指導や支援に生かす。